

6 農産第999号
令和6年7月19日

各関係機関、団体長 様

愛媛県農林水産部長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察警報（第1号）を下記のとおり発表したもので送付いたします。

令和6年度 病害虫発生予察警報（第1号）

令和6年7月19日

愛媛県

病害虫名 果樹カメムシ類
作物 果樹類（キウイフルーツ、かき、かんきつ等）

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 多
- 3 警報発表の根拠

- (1) 本年はチャバネアオカメムシの越冬成虫量が非常に多かったことから、令和5年度病害虫発生予察注意報第1号(令和6年3月22日付)を、また、集合フェロモントラップで誘殺数が多くなったことから令和6年度病害虫発生予察注意報第1号(令和6年6月7日付)を発表し、注意を呼びかけてきたが、現在でも異常な発生が続き減少していない。
- (2) 7月第1～第2半旬にかけて予察灯や集合フェロモントラップでの誘殺数は、平年の90倍を超える地点がみられるなど、警報を発表した平成8年と比べても誘殺数は多い(表1)。
- (3) 7月第2～第3半旬に行った果実調査(キウイフルーツ、かき、かんきつ)では、全ての樹種で被害が認められ、特に、キウイフルーツでは被害果率が高く、平成8年を超えている(表2)。また、山際等で果樹カメムシ類の被害が非常に多かった園地では、90%を超える被害果が生じるとともに落果が見られる園地もある。なお、かきでは渋がきに比べ甘がきの被害果率が約3倍高くなっている(表3)。
- (4) 本年のように前期型(越冬成虫が多い)の場合には7月下旬にかけて飛来が減少するが、本年は餌となるヒノキ球果が極めて少ないため、園地へ多量の飛来が継続することが予想される。特に、8月上旬頃までは多量の園地飛来に最大限の警戒が必要である(図1)。

4 防除上の注意

- (1) 飛来時期や飛来量は園地により異なるため、園地観察を行い、発生を認めたら、各地域の防除暦に従い速やかに防除を行う。特に発生の多い地域では広域一斉防除を実施する。
- (2) 主に山林から果樹園に飛来するため、山林に近い園地での被害が多い傾向にあるので、特に注意する。
- (3) 果樹園への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなるので注意する。
- (4) 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間にかけて加害するので、薬剤散布は夕方に行うと効果的である。
- (5) 飛来が長期間続く場合は、継続的な防除が必要であるが、連続して防除を行うと、ハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖(リサージェンス)を引き起こす恐れがあるので注意する。
- (6) 薬剤は登録内容に応じて使用するが、周辺作物や生物(魚・蚕・ミツバチ等)に影響を及ぼさないよう注意して選択する。

表1 7月第1半旬から第2半旬の期間の果樹カメムシ類誘殺数

	誘殺数(頭)						
	予察灯				集合フェロモントラップ		
	R6	平年	平年比	H8 ^{注)}	R6	平年	平年比
西条市丹原町	—	—	—	—	8367	198.6	42.1倍
西条市西泉	372	6.5	57.2倍	104	—	—	—
松山市上難波	532	23.7	22.4倍	36	1887	317	6.0倍
松前町大間	343	3.8	90.3倍	22	—	—	—
久万高原町入野	732	35.9	20.3倍	18	—	—	—
松山市下伊台	4808	221.6	21.7倍	—	178	75.5	2.4倍
西予市宇和町	4278	79.6	53.7倍	197	—	—	—
宇和島市吉田町	795	29.7	26.8倍	451	1358	298.4	4.6倍
鬼北町興野々	1690	494.7	3.4倍	2	2975	515.7	5.8倍
愛南町御荘	812	46	17.6倍	141	—	—	—

注)H8年は、警報が発表された年

表2 広域調査における果実被害状況(7月第2~3半旬調べ)

地域別	樹種	調査園地数	被害園地率(%)	被害果率(%)	(参考)警報発表年(H8)の被害果率(%)
東予	キウイフルーツ	15	100	28.1	21.3
	かき	20	90	6.6	21.0
	かんきつ	17	88.2	6.6	10.1
中予	キウイフルーツ	13	100	30	10.8
	かき	11	100	18.5	3.7
	かんきつ	16	81.3	7.3	3.0
南予	キウイフルーツ	11	100	62.3	47.1
	かき	19	89.5	11.2	59.5
	かんきつ	21	61.9	3.9	30.3
県全体	キウイフルーツ	39	100	38.4	27.3
	かき	50	92	11	20.1
	かんきつ	54	75.9	5.7	16.2

表3 かきの樹種別被害状況

樹種	調査園地数	被害園地率(%)	被害果率(%)
甘がき	28	92.9	15.2
渋がき	21	90.5	5.3

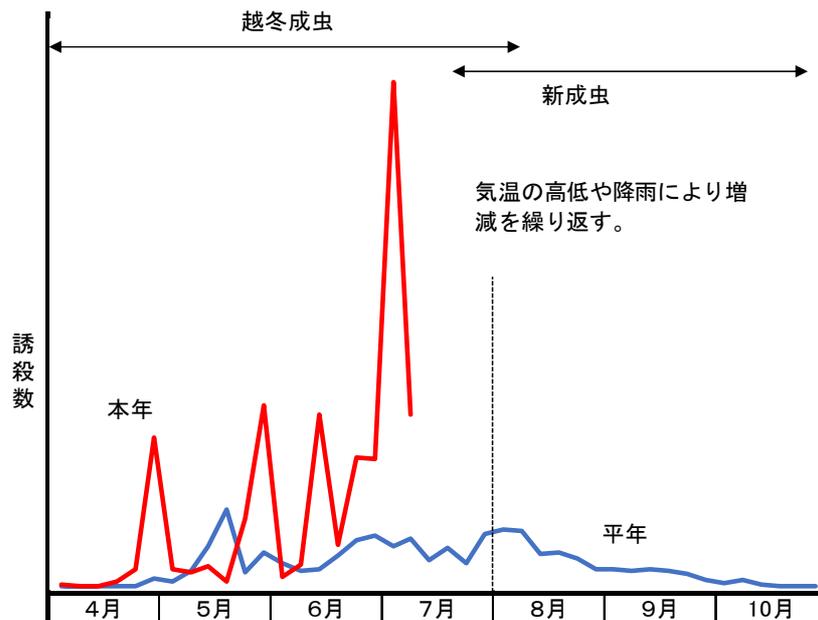
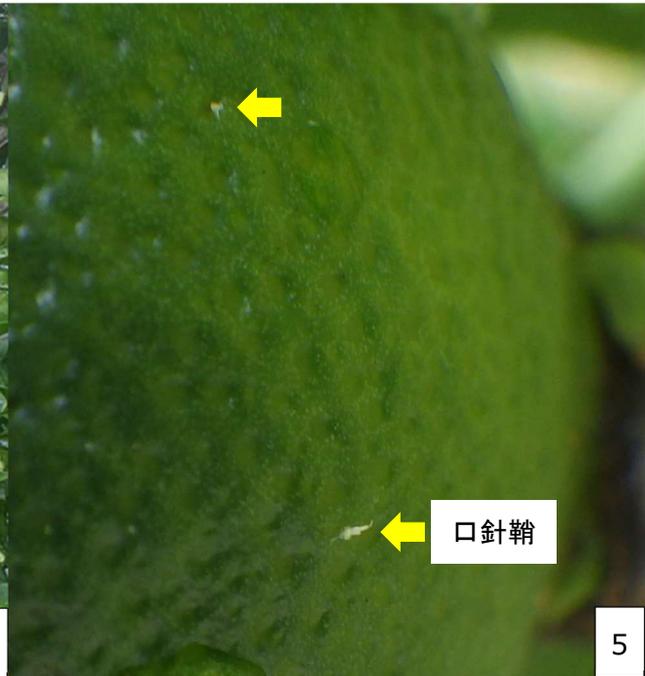


図1 前期型(越冬成虫が多い)の発生パターン
 ※予察灯による誘殺数をもとに作成したイメージ図
 平年:前期に誘殺数の多かった年(9年分)の平均値
 本年は前期に誘殺数の多かった年の中でも特に多い



キウイフルーツ：裂果（1）と吸汁痕（2）

かき：吸汁により落下した果実（3）



かんきつ：黄化した果実（4）と口針鞘（5）

写真 果樹カメムシ類による被害状況

表4 主な防除薬剤一覧(令和6年度愛媛県農作物病虫害等防除指針より抜粋)

作物	IRAC コード	薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数	毒性	
						人毒	水産
なし	1B	スミチオン水和剤40	1,000	(無袋) 収穫21日前まで (有袋) 収穫14日前まで	6回以内 6回以内	普通	△
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		アドマイヤー水和剤	1,000	収穫3日前まで	2回以内	劇物	△
		スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		ダントツ水溶剤	4,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
	3A	アグロスリン水和剤	1,500	収穫前日まで	3回以内	劇物	×
		スカウトフロアブル	1,500	収穫前日まで	5回以内	劇物	△※
		テルスター水和剤	2,000	収穫前日まで	2回以内	普通	△※
		テルスターフロアブル	5,000	収穫前日まで	2回以内	劇物	×
		ロディー水和剤	1,000	収穫前日まで	2回以内	劇物	×
28	テッパン液剤	2,000	収穫前日まで	2回以内	普通	○	
かき	1B	スミチオン水和剤40	1,000	収穫30日前まで	3回以内	普通	△
	4A	アドマイヤー水和剤	1,000	収穫7日前まで	3回以内	劇物	△
		スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫3日前まで	3回以内	普通	△
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	劇物	△
		ダントツ水溶剤	4,000	収穫7日前まで	3回以内	普通	△
	28+4A	キックオフ顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
	3A	アグロスリン水和剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	劇物	×
		テルスター水和剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	普通	△※
		テルスターフロアブル	5,000	収穫3日前まで	2回以内	劇物	×
ロディー水和剤		1,500	収穫7日前まで	3回以内	劇物	×	
3A+1B	パーマチオン水和剤	2,000	収穫30日前まで	3回以内	劇物	×	
2B	キラップフロアブル	2,000	収穫7日前まで	2回以内	普通	○	
キウイフ ルーツ	4A	アドマイヤーフロアブル	2,000	収穫7日前まで	2回以内	劇物	△
		スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		ダントツ水溶剤	4,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
	3A	アディオン乳剤	2,000	収穫7日前まで	5回以内	普通	×
		アグロスリン乳剤	2,000	収穫7日前まで	3回以内	劇物	×
		テルスターフロアブル	3,000	収穫前日まで	2回以内	劇物	×
かんきつ	4A	アドマイヤーフロアブル	2,000	収穫14日前まで	3回以内	劇物	△
		ダントツ水溶剤	4,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫14日前まで	3回以内	普通	△
		スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000	収穫14日前まで	3回以内	劇物	△
		モスピランSL液剤	2,000	収穫14日前まで	3回以内	劇物	△
	3A	ロディー乳剤	2,000	収穫7日前まで	4回以内	劇物	×
	テルスターフロアブル	5,000	収穫前日まで	3回以内	劇物	×	

注1) 水産: 水産動植物への影響(表記については令和6年度愛媛県農作物病虫害等防除指針P.8参照)

注2) アドマイヤー水和剤及びフロアブル剤は、露地栽培については発芽期から開花期までは除く